

**JAPANESE TEAM CHEERING FLAG**

Patent Number: JP2002040973  
Publication date: 2002-02-08  
Inventor(s): SHIBATA KATSUHIKO  
Applicant(s): YOTSUHATA KK  
Requested Patent: ☐ JP2002040973  
Application Number: JP20000221959 20000724  
Priority Number(s):  
IPC Classification: G09F17/00  
EC Classification:  
Equivalents:

---

**Abstract**

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To enhance a value as a memento by providing a cheering flag which is formed by providing the pole segment of the flag with a first display part and integrating the rising-sun flag and the international tournaments.

**SOLUTION:** This cheering flag for Japanese teams is used in the international tournaments for various kinds of sports. The flag is constituted by providing the pole segment to be mounted with a fabric displaying the rising-sun flag with the first display part for displaying the international tournaments of sports. As a result, the flag may be provided with the meaning of integrating the rising-sun flag and the international tournament.

---

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-40973

(P2002-40973A)

(43) 公開日 平成14年2月8日(2002.2.8)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テマート\*(参考)

G 0 9 F 17/00

G 0 9 F 17/00

Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2000-221959(P2000-221959)

(22) 出願日 平成12年7月24日(2000.7.24)

(71) 出願人 595059399

ヨツハタ株式会社

神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町122番地  
の1-303

(72) 発明者 柴田 克彦

神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町122番地  
の1-303 ヨツハタ株式会社内

(74) 代理人 100092646

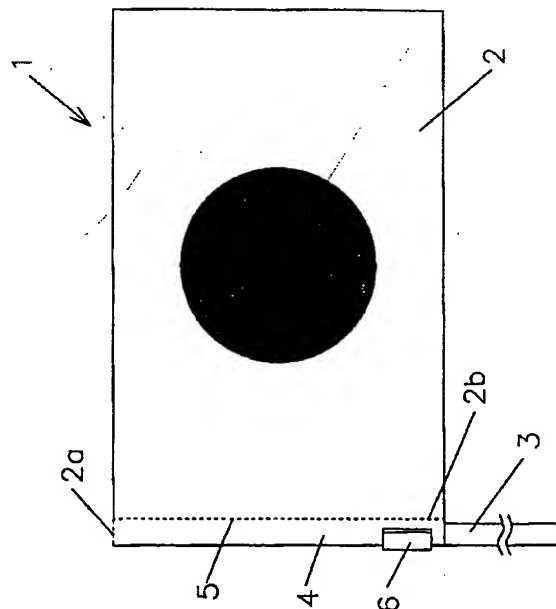
弁理士 水野 清

(54) 【発明の名称】 日本チーム応援旗

(57) 【要約】

【課題】 旗の棒部分に第一表示部を設けて、日の丸とスポーツの国際大会を一体化した応援旗を提供し、記念品としての価値を高めることを課題とする。

【解決手段】 本発明は、各種スポーツの国際大会で使用する日本チームの応援旗である。その構成は、日の丸を表示した生地を取付ける棒部分に、スポーツの国際大会を表示する第一表示部を設けてある。これにより、日の丸と当該国際大会を一体化する意味合いを持たせることができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】日の丸を表示した生地を取付ける棒部分に、スポーツの国際大会を表示する第一表示部を設けることにより、日の丸と当該国際大会を一体化することができることを特徴とする日本チーム応援旗。

【請求項2】請求項1において、前記第一表示部にスポーツの国際大会のロゴや標語などを表示することを特徴とする日本チーム応援旗。

【請求項3】請求項1又は2において、前記生地に日の丸と棒部分を識別する縫い目を兼ねた第二表示部を設けたことを特徴とする日本チーム応援旗。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、各種スポーツの国際大会において、日本及び日本選手を応援するために作成された応援旗であって、大会の記念グッズの一つとなるものを提供する。

## 【0002】

【従来の技術】従来各種スポーツの国際大会で日本を応援する旗としては、日の丸のみを使用してきた。そのため、当該大会と日の丸を一体化した応援旗は存在せず、大会終了後に、記念グッズとなるものではなかった。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】そこで、本発明は上記従来技術の欠点を鑑みなされたもので、旗の棒部分に第一表示部を設けて、日の丸とスポーツの国際大会を一体化した応援旗を提供し、記念品としての価値を高めることを課題とする。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明は、日本チームの応援旗であって、日の丸を表示した生地を取付ける棒部分に、スポーツの国際大会を表示する第一表示部を設けることにより、日の丸と当該国際大会を一体化することができることを特徴とする。

【0005】本発明によれば、各種スポーツの国際大会において、日の丸と当該国際大会とが一体化された日本チームの応援旗であるために、応援側にとって当該大会への参加意識が高められると共に、大会後には記念品としての価値を生ずるものである。

【0006】請求項2記載の発明は、請求項1記載の日本チームの応援旗において、前記第一表示部にスポーツの国際大会のロゴや標語などを表示することを特徴とする。

【0007】本発明によれば、応援を具体化するために、応援するスポーツの国際大会のロゴや標語、例えば「ニッポン！がんばれ！」の表示を第一表示部に入れることにより、応援側にとって応援する大会の目的を明確化し、後々の記念品となるものである。

【0008】請求項3記載の発明は、請求項1又は2記載の日本チームの応援旗において、前記生地に日の丸

と棒部分を識別する縫い目を兼ねた第二表示部を設けたことを特徴とする。

【0009】本発明によれば、生地に表示した日の丸の中に他の表示をすることは適さないので、日の丸と棒部分を識別するために、棒を取付ける生地の部分に縫い目を兼ねて白糸以外の糸で第二表示部を設けてある。

## 【0010】

【発明の実施の形態】本発明は、各種スポーツの国際大会で使用される日本チームの応援旗である。即ち、その構成は、日の丸を表示した生地を取付ける棒部分に、スポーツの国際大会を表示する第一表示部を設けてある。これにより、日の丸と当該国際大会を一体化する意味合いを持たせることができる。

## 【0011】

【実施例】以下、図面に基づいて本発明の好適な実施例を詳細に説明する。図1は、本発明の一実施例であって、日本チームの応援旗を示したものである。応援旗1は、日の丸を表示する生地2とこの生地を取付ける棒3とから構成され、生地2は布製とし、綿やポリエステル繊維を使用する。日の丸の寸法は、国旗及び国家に関する法律の規定に従い、日の丸を表示する生地2の中には他の表示を入れることは適さないので、棒部分に第一表示部4を設ける。棒3は塩化ビニール樹脂や木製の丸棒であって、この丸棒を生地の下部2bから挿入できるように生地2の終端側には縫い目5は設けられている。この縫い目5は生地2の上部2aから下部2bにかけて縫い合わせてあるので、棒の先端が抜けなくなっている。また、棒3にはストッパー6が取付けられていて、応援旗を振っている途中で生地2の下部2bが上方へ移動しないように構成されている。縫い目5は日の丸と棒部分を識別するために赤い糸で縫い合わせてあり、第二表示部を構成している。前述したように、日の丸を表示する生地2の中には、他の表示を入れることは適さないので、棒部分に国際大会のロゴや標語を表示する第一表示部を設け、さらに日の丸と棒部分を識別するための縫い目であると共に、赤糸で第二表示部を設けてある。

【0012】そして、棒部分の生地2に第一表示部4が設けられ、国際大会のロゴや標語を表示する。また、本発明では応援旗1の生地2を紐などを用いて棒3に結着するなどし、棒3の全体が露出する取付方法も可能であり、棒3に直接に第一表示部を設けてもよい。

【0013】本実施例では、丸棒を使用したのが、三角棒や四角棒を用いることもある。さらに、棒部分の表示は、棒の全周又はその一部であってもよい。また、日の丸と棒部分を識別する第二表示部に赤糸を用いたが、特に赤糸に限定されるものではなく、白糸以外の糸で日の丸と棒部分を識別できる糸なら何色の糸でも構わない。

【0014】また、棒部分に表示するものは、スポーツの国際大会のロゴや標語に限定されるものではなく、当該スポーツ大会名、チーム名、スポーツ組織名、大会ス

ポンサー名、選手を激励する言葉など適宜選択して表示すればよい。

【0015】

【発明の効果】本発明は、以上説明したような形態で実施され、次のような効果を有する。

【0016】本発明は、各種スポーツの国際大会で応援側にとって当該大会への参加意識が高められると共に、大会後には記念品としての価値を生ずる日本チームの応援旗である。

【0017】本発明は、応援側にとって応援する大会の目的を明確化し、後々の記念品となるものである。

【0018】本発明は、日の丸と棒部分を明確に識別する表示部があるので、国家の尊厳を害することのない日

本チームの応援旗を提供するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例であって、日本チームの応援旗を示す図である。

【符号の説明】

- |    |       |
|----|-------|
| 1  | 応援旗   |
| 2  | 生地    |
| 2a | 上部    |
| 2b | 下部    |
| 3  | 棒     |
| 4  | 第一表示部 |
| 5  | 第二表示部 |
| 6  | ストッパー |

【図1】

